

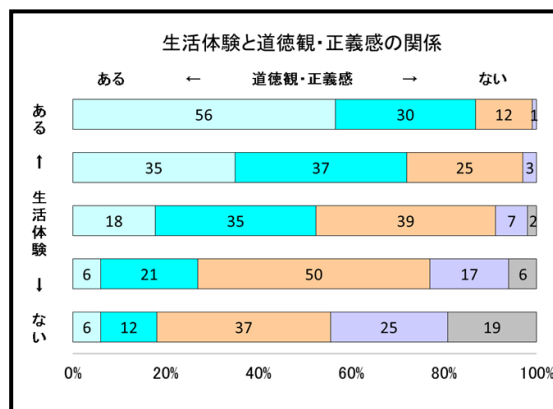
## 体験活動の充実

近年、核家族化や都市化の進行といったライフスタイルや社会状況の変化を背景に、家庭や地域の教育力の低下、規範意識や人間関係の希薄化、問題行動の多発等、子供たちをめぐる様々な課題が生じている。子供たちに豊かな人間性や社会性を育むためには、自然や社会に接し、生きること、働くことの尊さ等を実感させる機会をもたせることが重要である。そのため、学校・家庭・地域がそれぞれの役割において体験活動を充実させていくことが求められている。

### 1 学校教育における体験活動の必要性

小・中学校学習指導要領（平成29年）では、児童生徒の道徳性を育成するために、家庭や地域社会との連携を図りながら、集団宿泊活動やボランティア活動、自然体験活動などの豊かな体験活動を積極的に取り入れることが求められている。また、体験活動の実施に当たっては、児童生徒の発達段階を踏まえた指導を重視することが重要であり、小学校では自然の中での集団宿泊活動、中学校では勤労観・職業観を育む職場体験活動、高等学校では自分の将来展望や社会における自分の役割について考えを深める奉仕体験活動や就業体験活動等を重点的に推進することを求めている。

平成24年度に国立青少年教育振興機構が実施した「青少年の体験活動等に関する実態調査」では、生活体験が豊富な子供ほど道徳観や正義感に富む子供が多いという結果が報告されている。様々な体験は、子供の健全な発達にとって欠かせないものであり、学校内外を通じて体験活動の機会を充実させていくことが必要である。



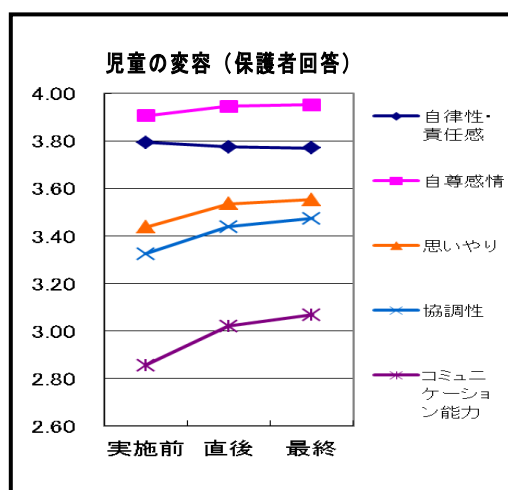
生活体験と道徳観・正義感の関係  
「青少年の体験活動等に関する実態調査」より

### 2 学校における体験活動の推進

#### (1) 長期の集団宿泊活動の意義

小学校学習指導要領（平成29年）では、平素と異なる生活環境にあって、人間関係など集団生活の在り方について望ましい体験を積む集団宿泊活動は、一定期間（例えば一週間〔5日間〕程度）にわたって行うことにより、一層意義が深まるとされている。

広島県が平成25年度から実施している3泊4日の『山・海・島』体験活動の実施校を対象に行った調査では、長期の集団宿泊活動が児童の道徳性の向上など豊かな心の育成に効果があるとの結果が得られている。




長期の集団宿泊活動の教育効果  
「H28『山・海・島』体験活動“ひろしま全県展開プロジェクト”（調査結果）」より

## (2) 効果的な体験活動の実施

体験活動は効果的であるが、ただ体験させるだけでは、教育目標を達成することはできない。教育目標を達成するための体験活動は、次の点に留意することが必要である。

- ア 教育目標や各教科等の目標の達成に資するよう、どのような子供の資質や能力の向上を図り、どのようなことを学ばせるのか等、体験活動に期待するねらいを明らかにする。
- イ 教育課程上のどの時間で実施するのか、位置付けを明確にする。
- ウ 「体験→振り返り→活用」を繰り返す「学習のサイクル」を用いた指導計画を作成することにより、学びを深化、定着させる。
- エ 体験活動と教科・総合的な学習の時間などを関連付け、体験活動を生かすための事前・事後の指導を充実させる。
  - 事前** ねらいや意義を十分理解させ、活動について調べたり準備したりすることによって、意欲をもって主体的に活動できるようにする。
  - 事後** 体験活動を通して感じたり気付いたりしたことなどを振り返り、まとめたり発表し合ったりするなどの言語活動を通して体験を共有化し、成長を実感できるようにする。
- オ 豊かな人間性や社会性を育み、心の教育の充実を図るために、道徳の時間とのつながりや関連を工夫する。
- カ 効果を高めるために、日常とは異なる生活体験や社会奉仕体験、交流体験などを積極的に取り入れる。
- キ 安全確保のための事前調査や緊急時の対応方法等、準備に万全を期する。
- ク 校内の推進体制を整備するとともに、保護者や地域関係者等から体験活動に対する理解や幅広い支援が得られる体制づくりに努める。

## (3) ねらいとする子供たちの姿に近づけるための体験活動の指導計画例

防災教育と体験活動とを関連させた取組 「自ら育つ野外活動～自主・協力・友情・命～」(府中町立府中北小学校)		
活動内容	教育課程上の位置付け	主なねらい
<b>【学校教育目標】</b> 自ら育つ <b>【体験活動のねらい】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然に浸る体験を通して、情操を培い、自然を愛する心情を育てる。</li> <li>・自分達で考え、計画・実践する活動を通して、自主的な態度を育てる。</li> <li>・寝食を共にする生活を通して、望ましい集団生活や互いを思いやる大切さを学ばせ、ふれあいを深める。</li> <li>・夜間の避難体験や炊き出し体験をすることを通して、災害時の行動について考えを深める。</li> </ul> <b>【主な活動の計画】</b>		 <p>防災食レシピを調べて、昼食を作りました。食器とはしとコップを手作りしています。</p>
事前学習 ※学校 ○震源地が示された世界地図を見て、命を守るために、自分たちにできることを考えよう。 ○災害・土砂災害について調べて、防災マップを作ろう。	総合的な学習の時間 社会科・理科 学級活動	○体験活動を行う地域についての情報を集め、体験活動のねらいや個人の目標を話し合うなど、体験活動への意欲を高める。 <b>☆児童の実態に応じた個々の目標設定をさせることで、体験活動の取組を充実させることができる。</b>
3泊4日長期宿泊体験活動 ※広島市似島臨海少年自然の家【施設泊】 <b>【体験】</b> ○防災学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜の避難体験・ロープワーク・食器作り</li> <li>・野外炊飯(朝食・夕食作り)</li> </ul> ○ロボット体験 ○似島遺構巡り	学校行事 総合的な学習の時間	○夜間の避難体験や炊き出し体験をすることを通して、災害時の行動について考えを深める。 ○自分達で考え、計画・実践する活動を通して、自主的な態度を育てる。 ○寝食を共にする生活を通して、望ましい集団生活や互いを思いやる大切さを学ばせ、ふれあいを深める。
事後学習 ※学校 <b>【振り返り】</b> ○体験活動を通して考えたことをまとめ、「みんなの命をまもるために自分たちにできること」を考え、計画を立てよう。	総合的な学習の時間	○自然災害の脅威や自然災害からみんなの命を守る方法を学んだり、野外活動や避難所宿泊体験で体験したりしたこと、社会科で学んだことを基にして、学んだことを伝える方法を工夫し、主体的・協働的に学習を進めることができる。
○防災避難所体験会 ※学校 <b>【活用】</b> ○学習発表会 ○実践発表会 ○命を守る防災フェスタ ～共助ができる町を目指して～	総合的な学習の時間 社会科・理科 家庭科 学級活動 学校行事	○長期集団宿泊活動で学んだことをまとめ、他学年の児童や保護者、地域の人々等に分かりやすく表現させることを通じて、自己や他者の成長を実感する。

**☆効果を高める指導のポイント**  
 ○事前・事中・事後の学習を関連付けて、体験での学びを児童一人一人に振り返らせ、次の活動の計画を子供たち自身が考えることで、児童の主体的な活動とすることができる。